

「学び方を学ぶ」子どもを目指して

高知市立小高坂小学校 廣瀬 潤

自分の実践を振り返って

地図帳は、いろいろな情報がぎっしり詰まった宝箱である。だから、子どもたちは、「地名探し」や「〇〇の1番探し」となると、授業中どころか休み時間でも喜々として取り組む。が、いざ調べ学習や他の教科での活用となると途端にうまくできないことが多い。確かに地図に親しんではいるが、「自ら学ぶ」という点で十分なだろうか？教師の気の向くままの取り扱いで系統だった指導ができていたのだろうか？…こんな素朴な疑問(反省と不安?)から出発した実践である。

実施にあたってのポイント

以下のようなことを念頭において計画した。

- (ア)基礎的事項に精選する
- (イ)「学び方を学ぶ」内容にする
- (ウ)年間計画に位置づける
- (エ)プリント化しておく
- (オ)親しみやすいものにする

この際、もっともたいせつなことは、(イ)の「学び方を学ぶ」んだということを見童に事前に伝えておくことである。

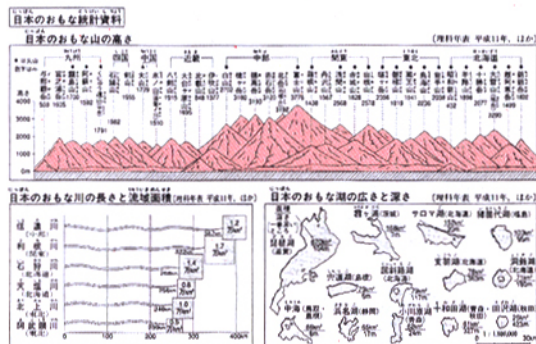
例えば、イタリアという国の首都を調べてごらん、という問いかけは、ローマという名称を覚えてもらいたいのではない。地図帳p.63の「資料の使い方を覚えてほしい」のだよ、ということを見童にしっかりと理解しておいてもらうということだ。

また、年度当初に指導内容をプリント化しておくこ

とで、行き当たりばったりの指導を避けるようにした。

なお、昨年度は(ア)の基礎的事項として、①索引、②地図記号、③縮尺、④山・川・湖等の地理的情報、⑤日本の気温と降水量、それに⑥都道府県別統計資料の活用を取り上げた。

統計ページが面白いことを子どもたちは意外と知らない。調べ学習ではもっともよく使うページなのに！である。そこで特に、④から⑥の統計資料の活用については時間をさき、ていねいに取り扱うようにしている。



(帝国書院「小学校社会科地図帳(三訂版)」P.60)

下のようなプリントを年間で10回授業の前に行い、地図帳の使い方を学習した。そして後のゲーム的な学習、さらには地図帳フル活用への足がかりとした。

終わりに

「富士山が日本で1番高い山」は、誰もが知っている「知識」に属するだろう。けれども、「富士山の高さは3776m」という「知識」は覚えていなくてもいい。ただ、「地図帳を使って調べればわかる」ということを知ってほしい。「学び方を学ぶ」子どもを目指すというのはそういうことである。系統だったプリント化による学習はその確かな糸口となっていると思う。

The image shows a hand-drawn worksheet titled 'ポチ博士と地図帳のお勉強' (Pochi-kun and the Geography Atlas Study). It features a drawing of a boy named Pochi-kun and a girl. The worksheet contains various notes and diagrams related to using a geography atlas. Key notes include: '今日は山の表の使い方を見てきました。' (Today we learned how to use the mountain table), '川の表の使い方、先生に聞いてきました。' (We learned how to use the river table from the teacher), and '山の表の使い方、先生に聞いてきました。' (We learned how to use the mountain table from the teacher). There are also diagrams showing how to find information in the atlas, such as finding the height of a mountain or the length of a river.

